

～直播の生育状況と今後の管理～

直播の生育状況(5月27日現在)

カルパー直播

平年に比べ苗立率はやや低く、苗立本数はやや少なくなっていますが、苗立目標 60 本/m²を確保しており、分けつの発生は旺盛となっています。

表 直播コシヒカリ(カルパー点播)の生育状況(1ヶ所)

年度	播種日 (月日)	苗立本数 (本/m ²)	苗立率 (%)	播種深度 (mm)	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉齢 (葉)
R6	4/24	61.7	60.6	5.5	21.0	128	5.0
R5	4/24	102.3	87.9	13.4	20.3	150	3.8
平年	4/27	68.1	67.2	7.0	17.9	100	3.6

鉄コーティング直播

平年に比べ苗立率が低く、苗立本数が少なくなっていますが、苗立目標 60 本/m²を確保しており、前年並の生育となっています。

表 直播コシヒカリ(鉄コ点播)の生育状況(1ヶ所)

年度	播種日 (月日)	苗立本数 (本/m ²)	苗立率 (%)	播種深度 (mm)	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉齢 (葉)
R6	4/29	64.9	44.6	0	12.2	65	3.8
R5	4/30	62.7	43.1	0	13.1	63	3.3
平年	4/29	87.4	63.1	3.5	14.8	103	3.3

今後の栽培管理について

直播栽培では、急激に茎数が増加することから溝掘りを早めに行い、適期に中干しを開始しましょう。また、中干し後にも雑草がみられる場合は、雑草の種類や発生状況に応じて適切に除草剤を散布しましょう。

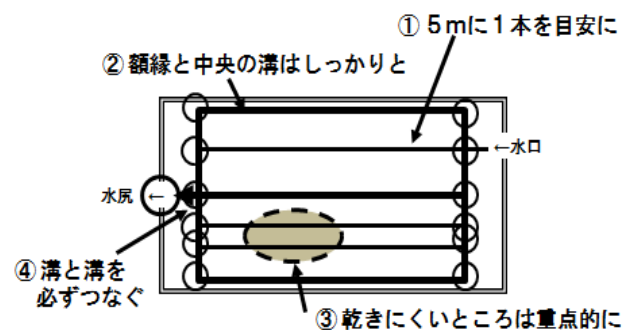
特に、“アオモの発生ほ場”では『水の入れ替え』を行きましょう。また、“ブクブクとわいているほ場”や“葉色の淡いほ場”では、『軽い田干し』を行きましょう。

1. 溝掘りは、中干し前に確実に実施

- ・溝掘りは、迅速な入排水を行うとともに、ほ場の地耐力を確保するため、中干し前（6月上旬）に必ず実施しましょう（5mに1本）。
- ・溝は水尻まで連結しましょう。

2. 中干しの実施

- ・1m間の茎数が100本程度になったら、中干しを開始しましょう。
- ・中干しは、土の表面にひび割れが入り長靴の跡がつく程度まで行き、極端に強く干さないようにしましょう（強く干しすぎると極端に葉色が低下し、穂数が不足する恐れがあります）。
- ・中干し後は、幼穂形成期まで間断かん水を継続しましょう。



3. 「ケイ酸」と「カリ」を施用しましょう。

- ・みな穂管内の多くのほ場で「ケイ酸」や「カリ」が不足しています。
- ・ケイ酸やカリの施用は、稲の活力を高め、根張りや受光体勢が良くなり、登熟が向上することで白未熟粒の発生抑制につながります。また、稲体を硬く健全に保つことで倒伏の軽減や、秋落ち防止の効果があります。
- ・直播は播種深が浅く、倒伏しやすいことから「エスアイ加里らくだ」を積極的に施用しましょう。



【施用時期の目安：6月20～25日頃、施用量：15kg/10a】

4. 除草剤の散布

- ・ほ場に発生している雑草の種類や葉齢を確認し、適期に除草剤を散布しましょう。

(1) ノビエ中心の場合

除草剤名	散布量(10a当たり)	使用時期	使用回数	注意事項
トドメMF 1キロ粒剤	1kg	稲3.5葉～ノビエ4葉期 収穫50日前まで	3回 以内	・湛水して散布
トドメMF 乳剤	200ml (希釈水量25～100ℓ)	播種後10日～ノビエ6葉期 収穫50日前まで	2回 以内	・雑草茎葉散布 又は全面散布

(2) 広葉雑草のみの場合

除草剤名	散布量(10a当たり)	使用時期	使用回数	注意事項
バサグラン 粒剤	3kg	稲3葉期～入水50日後 収穫60日前まで	1回	・落水又はごく浅く湛水して散布 ・2日以上晴天が続く日を選んで散布
バサグラン 液剤	500～700ml (希釈水量70～100ℓ)	播種後35～50日 収穫50日前まで	2回 以内	

(3) ノビエと広葉雑草の場合

除草剤名	散布量(10a当たり)	使用時期	使用回数	注意事項
レプラス ジャンボ	10パック (400g)	稲1葉期～ノビエ4葉期 収穫60日前まで	1回	・湛水して散布
ロイヤント乳剤 (クサネム対策)	200ml (希釈水量100ℓ)	稲3葉期～ノビエ5葉期 収穫45日前まで	2回	・落水状態で散布 ・土壌水分が少ないと効果が十分発揮されないことがあるため、散布後3日以内に入水する。
トドメバスターMF 液剤	1000ml (希釈水量70～100ℓ)	播種後10日～ノビエ6葉期 収穫50日前まで	2回 以内	・落水状態で散布

※ 除草剤は使用時期、使用方法を守って散布してください。

5. 病害虫防除

- ・JAみな穂でカルパーコーティングした種籾には、殺菌剤のルーチンシード FS と殺虫剤のヨーバルシード FS が処理されているので、薬剤散布の必要はありません。
- ・種子塗抹や播種同時施薬でいもち対策を行っていない場合、中干し終了後、オリゼメート粒剤を散布し、葉いもちを予防しましょう。
- ・また、ニカメイチュウによる鞘枯れが見られたら防除しましょう。

対象病害虫	薬剤名	散布量(10a 当たり)	散布時期	注意点等
葉いもち (防除)	オリゼメート 粒剤	3～4kg	6月中旬 頃まで	・散布時は5cm程度の湛水とし、5日間は湛水状態を保ち、散布後7日間は落水しない。 ・中干しが不十分な場合は、散布湛水期間の後、再度田干しを行ってください。
ニカメイチュウ	パダン 粉剤 DL	4kg	6月 中～下旬	・鞘枯れが見られたら、速やかに散布する。 ・落水して散布して下さい。

JAみな穂営農センター TEL 74-2440
JAみな穂中央支店経済課 TEL 72-5379
JAみな穂南部支店経済課 TEL 78-1167

新川農林振興センター農業普及課 TEL 52-0094
JAみな穂西部支店経済課 TEL 72-1162
JAみな穂あさひ支店経済課 TEL 83-3212